



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 57

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

移動図書館(自動車文庫)
昭和48(1973)年 高瀬町

高瀬町立図書館は約6カ月の試験期間を経て、昭和47(1972)年6月から軽自動車を利用した移動図書館の運用を開始した。2代目の移動図書館車を購入した際、『広報たかせ』昭和58(1983)年7月号で名前を募集し、『ひまわり号』に決定した。香川県の町立図書館で移動図書館を運行していたのは、高瀬だけであった。

※文書館では、まちの風景や催事などの古い写真を収集しています。原本はお返ししますので、情報の提供をお願いします。【文書館 ☎63・1010】

「思い出の1ページ」

「そうそう、この車が移動図書館で、私もよく運転していました。ブックモビルとも呼ばれました。ブックモビルとも呼ばれたが、後に『ひまわり号』の愛称で地域の人たちに親しまれていましたね」と写真を指差しながら話すのは、長年、高瀬町図書館で司書補として勤務した大西由美子さん(65)。

移動図書館は、昭和45年の高瀬町図書館開設後、主に会社勤めの人や図書館から離れた場所に住んでいる人の読書活動を支援する目的で始まりました。初代のひまわり号は360ccの軽四バン。荷台の書架には約500冊の本を積載していました。

「ひまわり号は、毎週日曜日、職員2人が乗り込んで、図書館から離れた場所にある公民館や自治会場を中心に回りました。目的が近づく、車上のスピーカーで童謡などの音楽を流しながら、『図書館から参りました。いつものところでお待ちしています!』とアナウンスして、到着を周囲に伝えていましたね。また、初代の図書館長、大黒光彦さんの『一人ひとりを大切にする』という信念から、本を求める人がいる場所へ積極的に出向きました。ときには大麻山中腹の個人宅へ本を届けたこともありましたよ」と、熱意を持つ

て業務に励んだ日々を振り返ります。

「ある夏の日、いつものように町内を回っていると、道端で大事そうに本を抱えた少女が私たちの到着を待っていてくれたことがあります。そのとき、この仕事の意義を知ると同時にやりがいを感じましたね。あの光景は今でもよく覚えています」と微笑みながら印象に残る出来事を語ってくれました。

現在、同図書館の裏手には白い箱バンが停まっています。たくさん本と抱え、積んだ3代目ひまわり号は、今日も市民に本と笑顔を届けています。

編集 後記



一豊市が合併して、個人的に市内の図書館全てを利用できるようになったことでした。それぞれの館を周ってみると、読みたかった本を見つけたり、少しずつ異なる館の特徴を感じたりすることがあります。今月は図書館特集。取材をしていく中で、そこに関わる人々を知り、図書館の奥深い魅力を改めて実感しました。みんなの本棚を私も大切に活用していきたいと思えます。